

## 校長室の窓から

No.19

### 待ち遠しい春

季節は24節気の「啓蟄」。ケイチツと読み意味は、陽気に誘われ土の中の虫が動き出すころのこと。一雨ごとに春に近づいている、そんな季節の気配を感じる今日この頃。3月の代表的な行事と言えば桃の節句、女の子のいるお家では「おひな様」を飾って女の子の成長を願うお祭りです。また、このおひな様の飾りも3月3日が終わると急いでしまわなければ、お嫁に行き遅れる、なんてことを言う人もいますが、どうでしょうね？

皆さん気づいていますか、学校にも可愛らしいおひな様が飾ってあります、中村学級の生徒が心を込めて作ってくれました。



さて、3年生諸君は13日の卒業式に向けて最後の思い出づくりと共に翌日の公立高校入試に向けて最後の頑張りを見せている頃かと思えます。

2月の私立高校入試、公立高校推薦・特色等の入試を終え、すでに進路が決定している人は、一休みと言ったところですが、新しい環境への準備とその先への更なる目標を立ててゆっくりで良いですから歩み始めて下さい。

また、今回は力を出し切れず不調に終わってしまった人は、人生の大きな岐路に立たされています。今こそしっかりとした目標・夢を持って実現に向けて頑張らなければ成りません。一生の中でこれほど頑張ったことはない、と後から振り返って思い出になるくらいの取組が必要かと思えます。吉報を待っています。

2年生・1年生諸君、学年末考査のできはどうでしたか？1年の総まとめとして力を出し切ることができましたか？3年生の先輩たちが義務教育を終えその次の段階へと夢と希望を持って挑戦しています。1発で目標を達成した者、何回か進路変更をせざるを得なかった者、それぞれにこれからの人生への大きな節目になっていくと思えます。

1・2年生の皆さんもしっかりとした夢と希望を持って次の学年へとつないでいけるよう残りの日々を充実させて下さい。

### 卒業生を送る会



先日、学校の卒業式に先立ち市内の全特別支援学級が集まり「卒業生を送る会」がJR尼崎駅前の小田公民館で開催されました。本校からも中村学級と森木学級の生徒たちが参加し、歌や寸劇、楽器演奏にと活躍してくれました。



司会のインタビューにしっかりと答え、少ない人数でしたが武庫中学校の生徒と協力しながら見事な演奏を見せてくれました。

平成25年 3月 1日  
尼崎市立武庫東中学校  
校長 小谷 豪 郎

## 第35回卒業証書授与式

いよいよ3月13日に本年度の卒業証書授与式が執り行われます。残念ながら体育館の収容スペースの関係から在校生は、生徒会執行部と1・2年の学年代表者しか卒業式会場に参加できません。昨年の卒業式もそうでしたが、卒業生の答辞、そして卒業式歌に流れていくと、文化発表会で皆さんも聞いた3年生のクラス合唱や学年合唱の何倍もの迫力で3年間の思い出と心のこもった、素晴らしい歌声を聞かせてもらえます。

在校生の代表として参加される皆さん、是非この良き風習を武庫東中学校の良き伝統・誇りとしてこれからもつなげていって欲しいと思っています。

### 3年生の善行

最近、中学生というと何かと問題行動や不良行為、が取り上げられる機会が多いようですが、地域の方々からうれしい連絡を2件いただきました。

1件は、私立高校への願書提出の日、阪急武庫之荘駅周辺の自転車が突風にあおられて次々と倒れ歩行者に迷惑になっていたようなときに、願書提出の向かった本校3年生の男子3名が丁寧に自転車を起こして並べ直して歩道を確保していたそうで、通りがかりにこの風景を見かけられた地域の方から電話でお褒めのことばをいただきました。

もう1件は、武庫之荘9丁目に住む方から、体が少し不自由で整形外科からの帰りに自転車で転倒して身動きが取れずに困っている時に、通りがかりの大人は誰も声もかけてくれなかったところ、下校途中の3年生の男子4～5名が手を貸して丁寧に対応してくれ自転車に乗って行くまで見守ってくれたと、感激のあまり電話口で泣きながら感謝のことばをいただきました。

素晴らしい先輩たちの行動に大きな拍手を送りたいと思います。1・2年生諸君もこのような先輩たちの行動を手本として、一人一人が常に学校の名前を背負っているという意識を持って行動すること。そして、地域で信頼される、地域に貢献できるそんな人に育って下さい。

#### 【今月のことば】

できるか、できないかではなく、  
やりたいか、やりたくないか。  
不可能は自分が作った錯覚に過ぎない。

絶対に成功すると思いつけた者だけ成功するし、  
思いつけられれば、それだけで成功者だ。

奇跡は起こるものではない。  
奇跡は自分で起こすものだ。  
夢は、折れなければ実現する。

西岡先生が読まれていた本で、登山家の「栗城」さんという方がエベレストへ単独無酸素登頂に挑戦しその経験から様々な考え方や思い、周囲の人の対応・反応などいろんな観点からこの本を書いておられます。

「NO LIMIT」というタイトルでサブタイトルが、「自分を超越する方法」と有り興味があり見せていただいた中にこのような気になることばがありました。